



長野県白馬に生まれる
「ダボス会議空間」へ
ようこそ!

世界経済評論フォーラム 白馬会議2010のご案内



シェラリゾート白馬

かつて日本は「東洋のスイス」を戦後復興モデルとしたが、そのスイスからまだ学習獲得してないソフトパワーがある。ダボス会議だ。あのスイスの小さな村に毎年、世界中の様々な知が集まって来る。こんな情報創造発信拠点を世界にもう1つ造りたい。「西のダボス。東の白馬。」—今秋3年目となる白馬会議の弛まぬ志です。

- 統一テーマ** “失われた20年を脱却せよ!”—日本の復活戦略を問う
- 開催期間** 2010年11月27日(土)～28日(日)
- 開催会場** 長野県白馬村「シェラリゾート白馬」 <http://hakuba.sierra.ne.jp/welcome.html>
【東京駅からの所要時間】約2時間半：長野新幹線で長野入りし、オリンピックロードを走る白馬直行バスを利用。
- 主催** 社団法人 世界経済研究協会
- 後援** 長野県・(社)長野県経営者協会

【参加定員】 100名（参加者が50名を超える場合、宿泊のみシェラリゾート白馬に隣接するホテルとなります。）

【参加費用】 1名3万3千円（1泊4食の滞在費、会議運営費、資料代等を含む。）

※『世界経済評論』定期購読者・世界経済研究協会会員企業関係者及び昨年参加者は3万円。

【参加申込方法】「白馬会議参加希望」と明示、氏名・所属及び連絡先の住所、TEL&FAX番号を記し、メール：forum@sekaikeizai.or.jp または Fax：03-6423-0056までお送り下さい。折り返し、詳細プログラム・申込書及び参加費請求書をお送りします。

【申込締切】 定員になり次第、締め切ります。

【問い合わせ】

〒107-0052 東京都港区赤坂5丁目2-41 赤坂サンクビル203
(社)世界経済研究協会
TEL03-6423-0057 FAX03-6423-0056



白馬会議2009クロステーマセッション会場



白馬会議2008サブテーマセッション会場



◎(社)世界経済研究協会 (Association for World Economic Studies)◎ 「産官学一体となって世界経済の中の日本の針路を考える」を活動理念に1963年創設。「産」では日本経済をリードする有力企業を法人会員として擁し、「官」では五省庁（外務・財務・経産・農水・内閣）の共管を受け、「学」では日本国際経済学会・国際ビジネス研究学会等と姉妹関係にある。創刊50年余に及ぶ『世界経済評論』誌の発行（隔月）、東京で年5回開催する「世界経済評論フォーラム」そして毎年秋開催の「白馬会議」によって形成される「知のトライアングル」をベースに意欲的な情報創造&発信に注力。
会長 檜田松瑩・三井物産会長 理事長 池間誠・一橋大学名誉教授 専務理事 市川周 URL：http://www.sekaikeizai.or.jp

“失われた20年”を脱却せよ！—日本の復活戦略を問う

どうして日本はこんなところに来てしまったのであろうか？

日経平均株価は1989年末ピークの3万8915円から現在、1万円前後とほぼ4分の1に。名目GDPは20年前の水準にほぼ戻ってしまい、世界で占める日本のシェアは94年の18%から08年は8%へ、国民1人当たりのGDPも93年の世界第2位から08年には19位へ。まさしく落日の20年であった。

もう我慢は出来ない。この“失われた20年”を集中的に、徹底的に、そして具体的に議論し、その復活戦略を問うのが「白馬会議2010」の目指すところです。

【サブテーマセッション】

以下、4つのサブテーマに沿って議論を深めます。

サブテーマ・I 「日本企業は韓国サムスンの強さから何を学ぶか？」

〔基調報告者〕石田 賢 氏（日本サムスン株式会社 前顧問）

日本の電機大手群を世界シェアと利益で圧倒するサムスンの強さを、5年間、日本サムソンの顧問として内部から見つめて来た石田賢氏に語って頂きます。日本企業がサムスン抜き返す。極めて明快な目標設定ですが、それを実現するにはどうすべきか？ 経営・組織・技術等多面的に議論します。

サブテーマ・II 「日本の政治は復活戦略をリードできるか？」

〔基調報告者〕上杉 隆 氏（ジャーナリスト）

「政権交代」という明治維新时期、そして戦後改革期に匹敵する大変動に揺れ続ける日本の政治に、果たして、“失われた20年”脱却のイニシアチブが取れるのか？ 既存の記者クラブ型手法にとられないフリーランス政治ジャーナリスト上杉隆氏の感性と取材網から縦横無尽に語ってまいります。

サブテーマ・III 「日本経済はアジア太平洋のフロンティアにどう立ち向かうか？」

〔基調報告者〕木村 福成 氏（慶応義塾大学教授）

APEC、「アジア内需」、「アジア経済共同体」、「自由貿易協定」等々、アジア太平洋に広がるフロンティア論が展開されているが、この可能性に日本経済はどう具体的に立ち向かうか？ 日本を代表する国際経済学者の一人である木村福成氏に幅広い研究ネットワークから提起してまいります。

サブテーマ・IV 「地方経済はグローバル競争下でどう戦うか？」

〔基調報告者〕藻谷 浩介 氏（政策投資銀行 地域企画部参事役）

グローバル競争下、海外に行ってしまったものを懐かしんでも仕方がない。問われるのはかつて世界最強の日本経済を仕立て上げた地方経済の底力を再構築することだ。旧開銀行以来、地方経済の現場を歩き続けた情報力と卓抜な構想力をもつ藻谷浩介氏が実践的戦略提案を試みます。

【クロステーマセッション】

上記サブテーマセッションの基調報告者を中心に、各サブテーマをクロスさせる形のパネルディスカッションを展開、統一テーマ“失われた20年”を脱却せよ—日本の復活戦略を問う”に対する白馬会議2010としての討議総括を行います。

※白馬会議2010の討議報告は『世界経済評論』2011年新年号「白馬会議総特集号」に掲載されます。

タイムテーブル

11月27日(土)	13:00~14:15	オープニングランチ&オリエンテーション
	14:30~16:00	<サブテーマIセッション> 「日本企業は韓国サムスンの強さから何を学ぶか？」
	16:15~17:45	<サブテーマIIセッション> 「日本の政治は復活戦略をリードできるか？」
	18:00~18:30	カクテル・レセプション
	18:30~20:30	テーブル・ディナー
11月28日(日)	07:00~	朝食
	08:15~09:45	<サブテーマIIIセッション> 「日本経済はアジア太平洋のフロンティアにどう立ち向かうか？」
	09:55~11:25	<サブテーマIVセッション> 「地方経済はグローバル競争下でどう戦うか？」
	11:30~13:00	<クロステーマセッション>
	13:15~14:00	クロージングランチ&閉会